

森林整備保全事業数量算出要領（施工パッケージ型積算方式）の制定について（平成 28 年 3 月 31 日付け 27 林整計第 358 号林野庁計画課長通知）
一部改正新旧対照表

改 正 後	現 行
(別紙) 森林整備保全事業数量算出要領 【施工パッケージ型積算方式】 第 1 編 (略) 第 2 編 共通工	(別紙) 森林整備保全事業数量算出要領 【施工パッケージ型積算方式】 第 1 編 (略) 第 2 編 共通工
① (略)	① (略)
② 土工	② 土工
②-1・②-2 (略)	②-1・②-2 (略)
②-3 整地	②-3 整地
1. 適用	1. 適用
残土受入地(山地治山土工を適用する場合を除く)での整地に適用する。	残土受入地での整地に適用する。
2～4 (略)	2～4 (略)
②-4 (略)	②-4 (略)
③ 作業土工(床掘工)	③ 作業土工(床掘工)
1・2 (略)	1・2 (略)
3. 区分	3. 区分
(略)	(略)
(1)・(2) (略)	(1)・(2) (略)
(3) 施工方法区分	(3) 施工方法区分
①～⑥ (略)	①～⑥ (略)
注) 1. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が100m ³ 程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りで、「1箇所当たり」とは、目的物1箇所当たりであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。	(新設)
2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。	
(4) (略)	(4) (略)
4 (略)	4 (略)
④ (略)	④ (略)

⑤ 人力運搬工

1. 適用

機械運搬（山地治山土工を適用する場合を除く）が使用出来ない箇所での人力運搬に適用する。

2～4 （略）

⑥ 人力土工（ベルトコンベヤ併用）

1. 適用

人力による掘削（床掘り）箇所の土砂等運搬（山地治山土工を適用する場合を除く）が直接仮置き又はダンプトラック等に積込めない場合に適用する。

2～4 （略）

⑦ 安定処理工

1. 適用

地盤改良工における安定処理（山地治山土工を適用する場合を除く）に適用するものとし、スタビライザ混合は現位置での路上混合作業で、混合深さ1mまで、かつ1層までの混合に、バックホウ混合は現場条件によりスタビライザにより施工できない路床改良工事及び構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合厚さが路床1m以下・構造物基礎2m以下における現位置での混合作業に適用する。

2～4 （略）

⑤ 人力運搬工

1. 適用

機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬に適用する。

2～4 （略）

⑥ 人力土工（ベルトコンベヤ併用）

1. 適用

人力による掘削（床掘り）箇所の土砂等運搬が直接仮置き又はダンプトラック等に積込めない場合に適用する。

2～4 （略）

⑦ 安定処理工

1. 適用

地盤改良工における安定処理に適用するものとし、スタビライザ混合は現位置での路上混合作業で、混合深さ1mまで、かつ1層までの混合に、バックホウ混合は現場条件によりスタビライザにより施工できない路床改良工事及び構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合厚さが路床1m以下・構造物基礎2m以下における現位置での混合作業に適用する。

2～4 （略）

第2章 共通工

①・② (略)

③ 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工

1 (略)

2. 数量算出項目

基礎砕石、基礎栗石の面積、裏込砕石、裏込栗石、採取小割の体積を区分ごとに算出する。

3・4 (略)

第2章 共通工

①・② (略)

③ 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工

1 (略)

2. 数量算出項目

基礎材の面積を区分ごとに算出する。

3・4 (略)

④ コンクリートブロック積（張）工

1. 適用

コンクリートブロック積（張）工に適用する。

2. 数量算出項目

数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表のとおりとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①コンクリートブロック積

項目	区分	鉄筋規格	鉄筋 10 m ² 当たり使用量	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	○	○	○	m ²		

②コンクリートブロック張

項目	区分	間知ブロック規格	作業区分	ブロック質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材 10 m ² 当たり使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10 m ² 当たり使用量	連節鉄筋（鋼線）規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	連結金具の有無	連結金具 10 m ² 当たり使用量	単位	数量	備考
間知ブロック張	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	m ²		
平ブロック張	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	m ²		
接続ブロック張	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	m ²		

④ コンクリートブロック積（張）工

1. 適用

コンクリートブロック積（張）工に適用する。

2. 数量算出項目

数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表のとおりとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①コンクリートブロック積

項目	区分	鉄筋規格	鉄筋 10 m ² 当たり使用量	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	○	○	○	m ²		

②コンクリートブロック張

項目	区分	間知ブロック規格	作業区分	ブロック質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材 10 m ² 当たり使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10 m ² 当たり使用量	連節鉄筋（鋼線）規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	連結金具の有無	連結金具 10 m ² 当たり使用量	単位	数量	備考
間知ブロック張	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	m ²		
平ブロック張	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	m ²		
接続ブロック張	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	m ²		

③緑化ブロック積

区分	緑化ブロック質量	裏込材規格	裏込材10㎡当たり使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10㎡当たり使用量	単位	数量	備考
項目								
緑化ブロック積	○	○	○	○	○	㎡		

④胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート

区分	ブロックの種類	裏込材規格	コンクリート規格	コンクリート打設条件	基礎砕石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考
項目									
胴込・裏込コンクリート	×	×	○	×	×	×	m ³		
胴込・裏込材（砕石）	○	○	×	×	×	×	m ³		
遮水シート張	×	×	×	×	×	×	m ²		
吸出し防止材（全面）設置	×	×	×	×	×	×	m ²		
植樹	×	×	×	×	×	×	本		
現場打基礎コンクリート	×	×	○	○	○	○	m ³		
天端コンクリート	×	×	○	○	×	○	m ³		

(2) ~ (13) (略)

4・5 (略)

③緑化ブロック積

区分	緑化ブロック質量	裏込材規格	裏込材10㎡当たり使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10㎡当たり使用量	単位	数量	備考
項目								
緑化ブロック積	○	○	○	○	○	㎡		

④胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート

区分	ブロックの種類	裏込材規格	コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考
項目								
胴込・裏込コンクリート	×	×	○	×	×	m ³		
胴込・裏込材（砕石）	○	○	×	×	×	m ³		
遮水シート張	×	×	×	×	×	m ²		
吸出し防止材（全面）設置	×	×	×	×	×	m ²		
植樹	×	×	×	×	×	本		
現場打基礎コンクリート	×	×	○	×	○	m ³		
天端コンクリート	×	×	○	○	○	m ³		

(2) ~ (13) (略)

4・5 (略)

⑤ 石積（張）工

1・2 （略）

3. 区分

（略）

（1）・（2） （略）

（3）直高区分

- ① 1.0m以上1.5m以下
- ② 1.5mを超え2.0m以下
- ③ 2.0mを超え2.5m以下
- ④ 2.5mを超え3.0m以下
- ⑤ 3.0mを超え5.0m以下

（4）～（6） （略）

4 （略）

⑤ 石積（張）工

1・2 （略）

3. 区分

（略）

（1）・（2） （略）

（3）直高区分

- ① 1.0m以上1.2m以下
- ② 1.2mを超え1.4m以下
- ③ 1.4mを超え1.6m以下
- ④ 1.6mを超え1.8m以下
- ⑤ 1.8mを超え2.0m以下
- ⑥ 2.0mを超え2.2m以下
- ⑦ 2.2mを超え2.4m以下
- ⑧ 2.4mを超え2.6m以下
- ⑨ 2.6mを超え2.8m以下
- ⑩ 2.8mを超え3.0m以下
- ⑪ 3.0mを超え3.3m以下
- ⑫ 3.3mを超え3.5m以下
- ⑬ 3.5mを超え3.7m以下
- ⑭ 3.7mを超え3.9m以下
- ⑮ 3.9mを超え4.1m以下
- ⑯ 4.1mを超え4.4m以下
- ⑰ 4.4mを超え4.7m以下
- ⑱ 4.7mを超え5.0m以下

（4）～（6） （略）

4 （略）

⑥ 平石張工

1. 適用

一般土木及び公園工事で施工する遊歩道、歩道、広場等の舗装・床張り、階段（踏面幅1,200mm以下、蹴上高400mm以下）及び壁張りにおける平石張工に適用する。

平石材料規格

作業区分 形状区分	舗装・床張り	階段	壁張り
乱形石	φ 50～600 mm程度 平均厚さ 10～60 mm程度 質量 15 kg程度まで	φ 80～400 mm程度 平均厚さ 15～40 mm程度 質量 6 kg程度まで	φ 60～300 mm程度 平均厚さ 15～50 mm程度 質量 7 kg程度まで
方形石	短辺 100 mm以上 長辺 1,500 mm以下 厚さ 25～120 mm 質量 60kg まで	短辺 100 mm以上 長辺 920 mm以下 厚さ 40～170 mm 質量 130kg まで	短辺 140 mm以上 長辺 600 mm以下 厚さ 30～120 mm 質量 60 kg まで

注) 質量は、石材 1 枚当たりである。

2. 数量算出項目

平石張、平石（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分、平石の形状区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	規格	作業区分	平石の形状区分	単位	数量	備考
平石張	×	○	○	m ²		
平石（材料費）	○	○	○	m ²		

注) 1. 平石（材料費）は、乱形石については径・平均厚さ・質量を、方形石については短辺・長辺・厚さ・質量も算出する。

(2) 作業区分

- ① 舗装・床張り
- ② 階段
- ③ 壁張り

(3) 平石の形状区分

- ① 乱形石
- ② 方形石

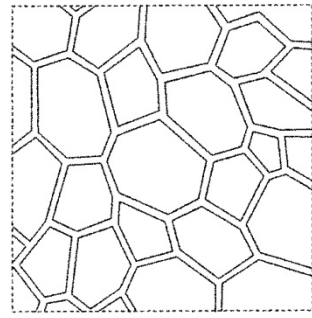
4. 数量算出方法

数量算出は、「第 1 編（共通編） 1 章基本事項」による。

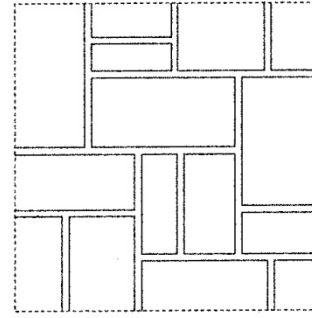
(新設)

5. 参考图

乱形石



方形石



⑦ 場所打擁壁工

⑦-1 場所打擁壁工 (1)

1・2 (略)

3. 区分

区分は、区分は、擁壁平均高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分										
	擁壁平均高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

注) (略)

(2) ~ (7) (略)

4 (略)

⑦-2 (略)

⑧ (略)

⑥ 場所打擁壁工

⑥-1 場所打擁壁工 (1)

1・2 (略)

3. 区分

区分は、区分は、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分										
	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

注) (略)

(2) ~ (7) (略)

4 (略)

⑥-2 (略)

⑦ (略)

⑨ 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁）

（新設）

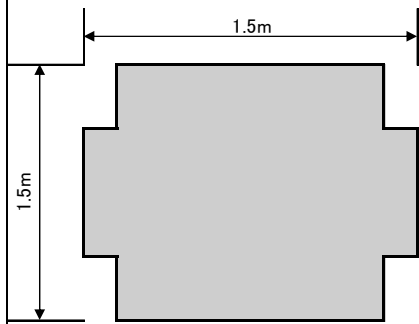
1. 適用

補強土壁工（帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁）においてコンクリート製壁面材（帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む）によるものに適用する。

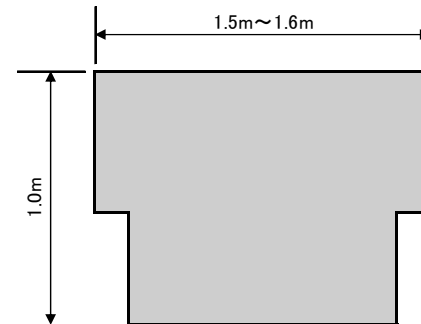
帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工種	帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
	帯鋼補強土壁（1）	帯鋼補強土壁（2）	
標準壁面形状	十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ)	長方形の1.2m×2.7m (高さ×長さ)	1.0m×1.5~1.6m (高さ×長さ)
補強材	ストリップ幅：60~80mm	ストリップ幅：80mm	SS400規格、SS490規格
壁面材強度	コンクリート設計基準 強度：21~30N/mm ²	コンクリート設計基準 強度：30N/mm ²	コンクリート設計基準 強度：30N/mm ² 、40N/mm ²
盛土	1層仕上り高さ：25cm	1層仕上り高さ：30cm	1層仕上り高さ：25cm

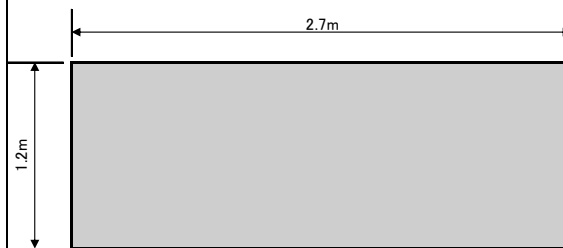
参考図. 各工種の標準壁面形状



帯鋼補強土壁（1）正面図



アンカー補強土壁 正面図



帯鋼補強土壁（2）正面図

(注) 1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上段部（ハーフ）、最下段部（ハーフ）、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 数量算出項目

補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材（材料費）、補強材取付、補強材（材料費）、まき出し・敷均し、締固めの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、工法区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規格	工法区分	単位	数量	備考
補強土壁壁面材組立・設置		×	○	m ²		
補強土壁壁面材 (材料費)		○	×	m ²		
補強材取付		×	○	m		
補強材 (材料費)		○	×	m		
まき出し・敷均し、締固め		×	○	m ³		

(2) 工法区分

- ① 帯鋼補強土壁 (1)
- ② 帯鋼補強土壁 (2)
- ③ アンカー補強土壁

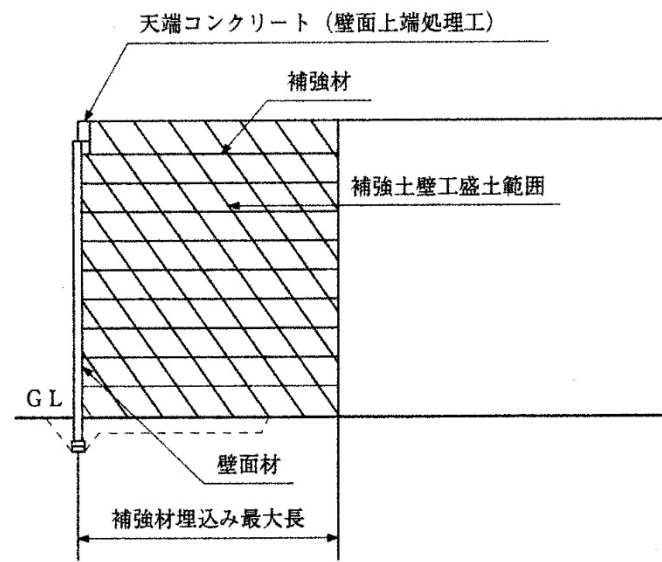
関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリート (天端コンクリート部)	m ³		「コンクリート工」参照
型枠 (天端コンクリート部)	m ²		「型枠工」参照
鉄筋工 (天端コンクリート部)	t		「鉄筋工」参照
足場	掛m ²		「足場工」参照
暗渠排水管	m		「排水構造物工」参照
フィルター材	m ³		「排水構造物工」参照
コンクリート (補強土壁基礎部)	m ³		「コンクリート工」参照
型枠 (補強土壁基礎部)	m ²		「型枠工」参照
基礎材工 (補強土壁基礎部)	m ²		「基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

5. 参考図（標準断面図）



補強土壁工標準断面図

（注）補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、第2編1章土工により算出するものとする。

⑩ ジオテキスタイル工

1. 適用

ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。
ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、壁面材種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	壁面材種類	単位	数量	備考
ジオテキスタイル壁面材組立・設置		○	m ²		
ジオテキスタイル壁面材（材料費）		×	m ²		
ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め		×	m ²		
ジオテキスタイル（材料費）		×	m ²		

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。

壁面材種類	規格		備考
	幅 (mm)		
鋼製ユニット	2,000		タイプA
	2,000		タイプB
	1,000		タイプC
	1,200		タイプD
(削除)			

(削除)

タイプ別	一層当たり施工高さ
タイプA	500 mm以下
タイプB	600 mm以下
タイプC	600 mm以下
タイプD	600 mm以下

⑨ ジオテキスタイル工

1. 適用

ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。
ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、壁面材種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	壁面材種類	単位	数量	備考
ジオテキスタイル壁面材組立・設置		○	m ²		
ジオテキスタイル壁面材（材料費）		×	m ²		
ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め		×	m ²		
ジオテキスタイル（材料費）		×	m ²		

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。

壁面材種類	規格			備考
	幅 (mm)			
鋼製ユニット	2,000			タイプA
	2,000			タイプB
	1,000			タイプC
	1,200			タイプD
土のう (植生土のう含む)	長さ(mm)	幅(mm)	高さ(mm)	
	620	480	100	
	600	400	100	
植生マット	400	400	200	
	各種			

2. ジオテキスタイル工1段当たり施工高さは1.5mまでとする。
3. ジオテキスタイル工1段当たりのまき出し、敷均し及び締固め回数に関係なく適用できる。

- (2) 壁面材種類区分
- ① 鋼製ユニット
 - ②～④ (削除)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	m ²		必要な場合別途計上
胴込・裏込コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
胴込・裏込材(碎石)	m ³		必要な場合別途計上
現場打基礎コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
排水管敷設工	m		「排水構造物工(プレキャスト製品)」参照
天端コンクリート (壁面上端処理工)	m ³		「コンクリート工」参照
型枠 (壁面上端処理工)	m ²		「型枠工」参照
鉄筋工 (壁面上端処理工)	t		「鉄筋工」参照
足場工 (壁面上端処理工)	掛m ²		「足場工」参照

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、鋼製ユニット及び直面積(壁高×施工延長)とする((3)図、5.参考図(2)参照)。
- (2) ジオテキスタイル壁面材(材料費)は規格ごとに壁面材面積当たりの鋼製ユニットの個数(個/m²)を算出する(5.参考図(1)参照)。
なお、施工方法別の数量算出項目、及び壁面材の標準使用量は以下のとおりである。

2. ジオテキスタイル工1段当たり施工高さは1.5mまでとする。
3. ジオテキスタイル工1段当たりのまき出し、敷均し及び締固め回数に関係なく適用できる。

- (2) 壁面材種類区分
- ① 鋼製ユニット
 - ② 土のう(植生土のう)
 - ③ 植生マット
 - ④ 鋼製ユニット+土のう(植生土のう)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	m ²		必要な場合別途計上
胴込・裏込コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
胴込・裏込材(碎石)	m ³		必要な場合別途計上
現場打基礎コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
排水管敷設工	m		「排水構造物工(プレキャスト製品)」参照
天端コンクリート (壁面上端処理工)	m ³		「コンクリート工」参照
型枠 (壁面上端処理工)	m ²		「型枠工」参照
鉄筋工 (壁面上端処理工)	t		「鉄筋工」参照
足場工 (壁面上端処理工)	掛m ²		「足場工」参照

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、鋼製ユニット及び土のう(植生土のうを含む)の場合は、直面積(壁高×施工延長)とし、植生マットの場合は斜面積(壁面長×施工延長)とする((3)図、5.参考図(2)参照)。
- (2) ジオテキスタイル壁面材(材料費)は規格ごとに壁面材面積当たりの鋼製ユニットの個数(個/m²)、土のうの袋数(袋/m²)、植生マットの面積(m²/m²)を算出する(5.参考図(1)参照)。
なお、施工方法別の数量算出項目、及び壁面材の標準使用量は以下のとおりである。

1) 施工方法別の数量算出項目

施工法 (工法)	適用	ジオテキスタイル 敷設・まき出し・ 敷均し・締固め	標準図
	ジオテキスタイル壁面材組立・設置 鋼製 ユニット		
鋼製ユニット工 法	○	○	5. 参考図 (1) 図A
巻込み工法 (壁面材なし)	×	○	5. 参考図 (1) 図E
普通敷設工法 (壁面材なし)	×	○	5. 参考図 (1) 図F

2) 鋼製ユニット標準使用量

(直面積 100 m²当たり)

壁面材種類	タイプ	一層当たり施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500 mm 以下	個	100	5. 参考図 (1) 図A
	タイプB	600 mm 以下		83	
	タイプC	600 mm 以下		167	
	タイプD	600 mm 以下		139	

(直面積 1 m²当たり)

壁面材種類	タイプ	一層当たり施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500 mm 以下	個	1.00	5. 参考図 (1) 図A
	タイプB	600 mm 以下		0.83	
	タイプC	600 mm 以下		1.67	
	タイプD	600 mm 以下		1.39	

(削除)

1) 施工方法別の数量算出項目

施工法 (工法)	適用	ジオテキスタイル壁面材組立・設置			ジオテキスタイル 敷設・まき出し・ 敷均し・締固め	標準図
	鋼製 ユニット	土のう (植生土のう)	植生 マット			
鋼製ユニット工 法	○	×	×	○	5. 参考図 (1) 図A	
巻込み工法 (植生土のう)	×	○	×	○	5. 参考図 (1) 図B	
巻込み工法 (植生マット)	×	×	○	○	5. 参考図 (1) 図C	
鋼製ユニット +植生土のう工 法	○	○	×	○	5. 参考図 (1) 図D	
巻込み工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図 (1) 図E	
普通敷設工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図 (1) 図F	

2) 鋼製ユニット標準使用量

(直面積 100 m²当たり)

壁面材種類	タイプ	一層当たり施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500 mm 以下	個	100	5. 参考図 (1) 図A
	タイプB	600 mm 以下		83	
	タイプC	600 mm 以下		167	
	タイプD	600 mm 以下		139	

(直面積 1 m²当たり)

壁面材種類	タイプ	一層当たり施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500 mm 以下	個	1.00	5. 参考図 (1) 図A
	タイプB	600 mm 以下		0.83	
	タイプC	600 mm 以下		1.67	
	タイプD	600 mm 以下		1.39	

3) 土のう (植生土のう) 標準使用量

(直面積 100 m²当たり)

壁面材種類	規 格	単位	数量	標準図
土のう (植生土の う)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	2200	5. 参考図 (1) 図B
	長 600 × 幅 400 × 高 100		2500	
	長 400 × 幅 400 × 高 200		1250	

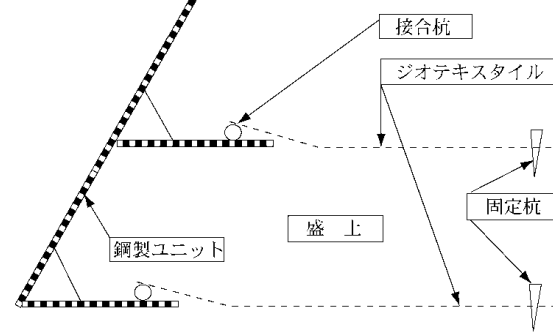
(直面積 1 m²当たり)

壁面材種類	規 格	単位	数量	標準図
土のう (植生土の う)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	22	5. 参考図 (1) 図B
	長 600 × 幅 400 × 高 100		25	
	長 400 × 幅 400 × 高 200		12.5	

(削除)

(3) ~ (8) (略)

5. 参考図 (標準断面図)
(1) 施工法別参考図



図A 鋼製ユニット工法参考図

(削除)

(削除)

4) 植生マット標準使用量 (斜面積 100 m²あたり)

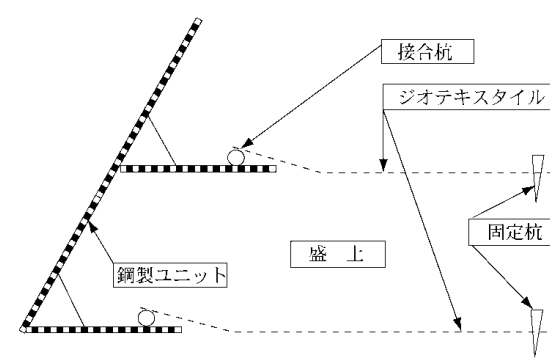
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標 準 図
植生マット	各 種	m ²	100	5. 参考図 (1) 図C

(斜面積 1 m²あたり)

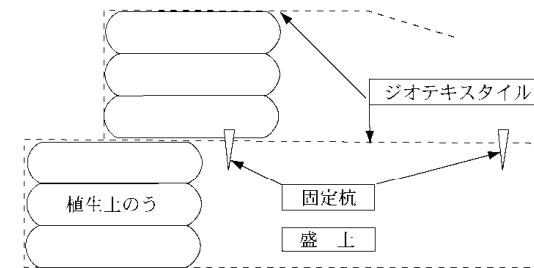
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標 準 図
植生マット	各 種	m ²	1.00	5. 参考図 (1) 図C

(3) ~ (8) (略)

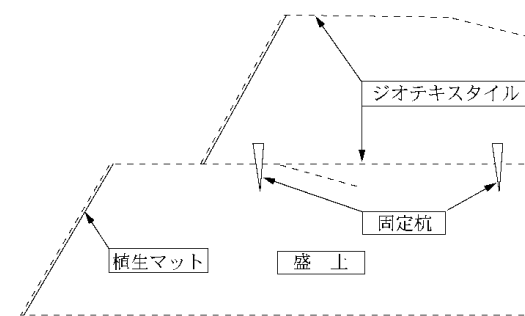
5. 参考図 (標準断面図)
(1) 施工法別参考図



図A 鋼製ユニット工法参考図

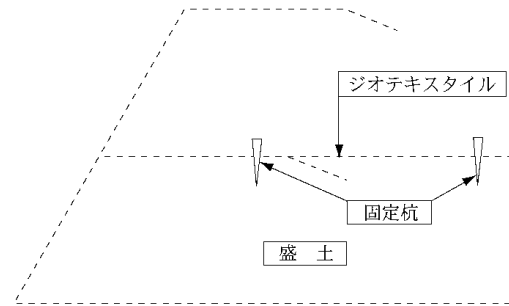


図B 巻き込み工法(植生土のう)参考図

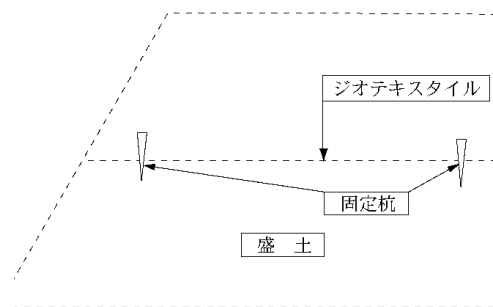


図C 巻き込み工法(植生マット)参考図

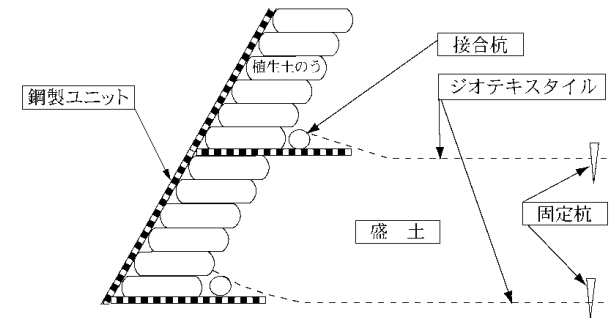
(削除)



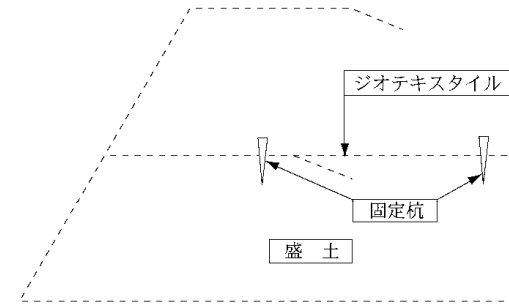
図B 巻き込み工法(壁面材なし)参考図



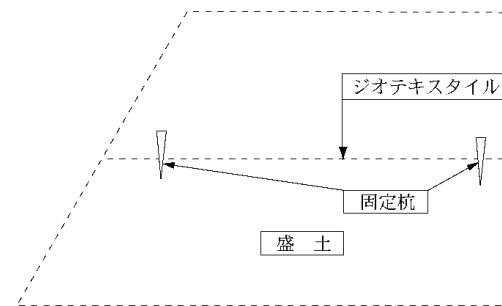
図C 普通敷設工法(壁面材なし)参考図



図D 鋼製ユニット+植生土のう工法参考図

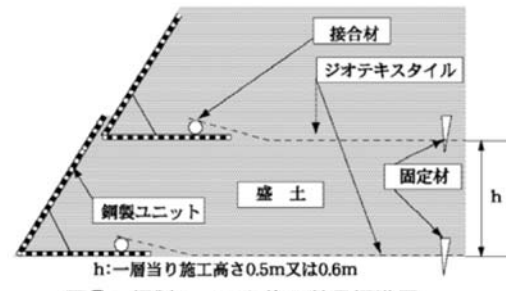


図E 巻き込み工法(壁面材なし)参考図



図F 普通敷設工法(壁面材なし)参考図

(2) 施工数量標準図

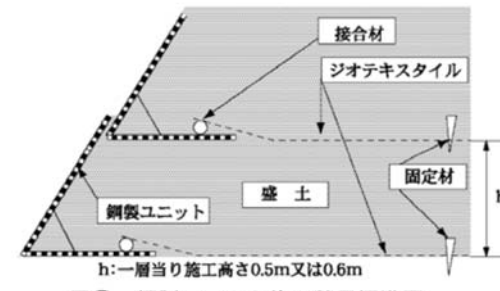


図① 鋼製ユニット施工数量標準図

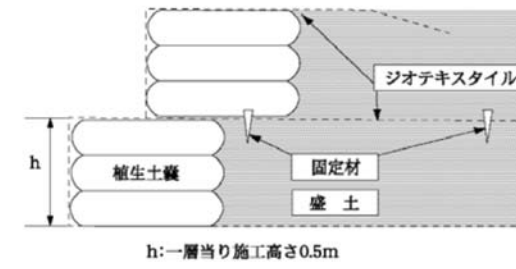
(削除)

(削除)

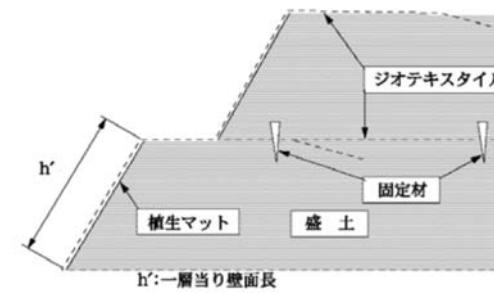
(2) 施工数量標準図



図① 鋼製ユニット施工数量標準図



図② 土のう施工数量標準図



図③ 植生マット施工数量標準図

⑪～⑭ (略)

⑮ 軟弱地盤処理工（粉体噴射攪拌工（DJM工法））

- 1・2 (略)
3. 区分

(略)

(1)・(2) (略)

(3) 現場制約の有無、打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長（空打部長さ+杭長）及び杭長ごとに区分して算出する。施工本数は、杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。

現場制約の有無	打設長	杭長
有り	3mを超え6m未満	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)

現場制約の有無	打設長	杭長
無し	3mを超え6m未満	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)

⑨～⑫ (略)

⑬ 軟弱地盤処理工（粉体噴射攪拌工（DJM工法））

- 1・2 (略)
3. 区分

(略)

(1)・(2) (略)

(3) 現場制約の有無、打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長（空打部長さ+杭長）及び杭長ごとに区分して算出する。施工本数は、杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。

現場制約の有無	打設長	杭長
有り	3mを超え6m未満	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)

現場制約の有無	打設長	杭長
無し	3mを超え6m未満	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
		(略)
		(略)
		(略)

		(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	20mを超え 27m未満	17m以上 20m以下
		20mを超え 23m未満
		23m以上 27m未満
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)

(4)・(5) (略)

4 (略)

⑩・⑪ (略)

		(略)
		(略)
		(略)
		(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	20m以上 27m未満	17m以上 20m以下
		20mを超え 23m未満
		23m以上 27m未満
	(略)	(略)
	(略)	(略)
	(略)	(略)

(4)・(5) (略)

4 (略)

⑭・⑮ (略)

⑩ コンクリート削孔工

(新設)

1. 適用

コンクリート構造物の削孔（さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等）作業に適用する。

削孔機械における適用削孔径及び削孔深

削孔機械 削孔径 及び削孔深	電動ハンマドリル (38mm)	さく岩機[ハンドドリル(空圧式)]質量 15 kg級	コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン][簡易仕様型]最大穿孔径 φ25 cm
削孔径 (mm)	10 以上 30 未満	30 以上 60 以下	60 を超え 200 以下
削孔深 (mm)	100 以上 200 以下	100 以上 600 以下	200 以上 400 以下

2. 数量算出項目

コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）、コンクリート削孔（さく岩機）、コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、削孔深さ、削孔径とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分		単 位	数 量	備 考
	削孔深さ	削孔径			
コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）	×	×	孔		
コンクリート削孔（さく岩機）	○	×	孔		
コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）	×	○	孔		

(2) 削孔深さ

- ① 100mm 以上 200mm 未満
- ② 200mm 以上 400mm 未満
- ③ 400mm 以上 600mm 以下

(3) 削孔径

- ① 60mm を超え 64mm 未満
- ② 64mm 以上 77mm 未満
- ③ 77mm 以上 90mm 未満
- ④ 90mm 以上 110mm 未満
- ⑤ 110mm 以上 128mm 未満
- ⑥ 128mm 以上 160mm 未満
- ⑦ 160mm 以上 180mm 未満
- ⑧ 180mm 以上 200mm 以下

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

⑱・⑳ (略)

㉑ 旧橋撤去工

1. 適用

鋼橋鈺桁（合成桁及び非合成桁）の高欄撤去から舗装版とりこわし、床版分割（ブロック施工）のための1次破碎と撤去及び桁材撤去と床版2次破碎までの一連作業による撤去工に適用する。
高欄撤去およびアスファルト舗装版破碎・積込はRC及びPC橋にも適用することができる。
なお、横断歩道橋撤去、床版打換え時のブロック施工等には適用しない。

2. 数量算出項目

高欄撤去、アスファルト舗装版破碎・積込み、床版1次破碎・撤去、床版1次及び2次破碎・撤去、桁1次切断・撤去、桁1次及び2次切断・撤去、アスファルト塊運搬、床版運搬の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、クレーン規格、相吊クレーンの有無、相吊クレーン規格、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
高欄撤去		×	×	×	×	×	m		注) 1
アスファルト舗装版破碎・積込み		×	×	×	×	×	m ³		注) 2
床版1次破碎・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3
床版1次及び2次破碎・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3
桁1次切断・撤去		○	○	○	×	×	t		
桁1次及び2次切断・撤去		○	○	○	×	×	t		
アスファルト塊運搬		×	×	×	○	○	m ³		注) 4
床版運搬		×	×	×	×	○	m ³		注) 5

注) 1. 高欄撤去とは、鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ製の高欄であり、コンクリート高欄（壁高欄含む）は除く。なお、高欄延長は、両車線の総撤去延長である。
2. 対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積とする。
3. 対象数量は、床版の体積とする。また、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）は、対象数量に含めて算出する。

⑰・⑱ (略)

(新設)

(2) クレーン規格、相吊クレーン規格

- ① ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 25 t 吊
- ② ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 35 t 吊
- ③ ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 45 t 吊
- ④ ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 50 t 吊
- ⑤ トラッククレーン油圧伸縮ジブ型 100 t 吊
- ⑥ トラッククレーン油圧伸縮ジブ型 120 t 吊
- ⑦ トラッククレーン油圧伸縮ジブ型 160 t 吊
- ⑧ トラッククレーン油圧伸縮ジブ型 200 t 吊
- ⑨ トラッククレーン油圧伸縮ジブ型 360 t 吊

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場・防護・ベント等			「鋼橋架設工及び仮設工」参照
現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上

注) 現場発生品の運搬をする場合は、質量 (t) についても算出する。

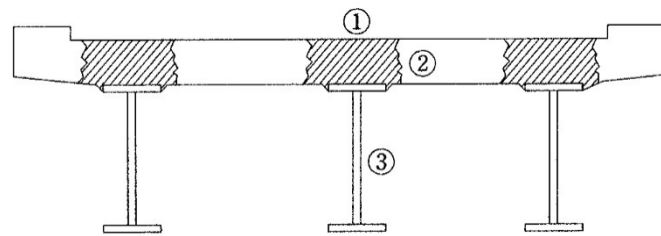
4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

(参考)

ブロック施工 (床版分割施工) とは、コンクリート殻を桁下に落とすことができず、ある程度のブロック状に1次破碎後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて、撤去する工法である。

なお、床版1次破碎・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。



作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破碎後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。

⑳ (略)

㉓ 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

- 1・2 (略)
- 3. 区分

(略)

(1) ~ (6) (略)

(7) 溶接金網規格区分

- ① G3551 径6.0×網目150×150mm
- ② (略)

(8) ~ (10) (略)

4・5 (略)

㉔ (略)

㉕ 函渠工

㉕-1 函渠工 (1)

1. 適用

以下のいずれかに該当する函渠工 (現場打カルバート工) の施工に適用する。

- (1) 土被り範囲 9m以下で 1層の現場打ちボックスカルバート
(アーチ・門型等形状は問わない)
- (2) 土被り範囲 9m以下で 1層 2連の現場打ちボックスカルバート
- (3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 340m以下の場合
また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工 (2) を適用する。
目地・止水板 (I型以外の形状) については、別途考慮する。

2 ~ 4 (略)

㉕-2 (略)

㉖ (略)

⑩ (略)

⑩ 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

- 1・2 (略)
- 3. 区分

(略)

(1) ~ (6) (略)

(7) 溶接金網規格区分

- ① G3551 径6.0×150×150
- ② (略)

(8) ~ (10) (略)

4・5 (略)

⑪ (略)

⑪ 函渠工

⑪-1 函渠工 (1)

1. 適用

以下のいずれかに該当する函渠工 (現場打カルバート工) の施工に適用する。

- (1) 土被り範囲 9m以下で 1層の現場打ちボックスカルバート
(アーチ等形状は問わない)
- (2) 土被り範囲 9m以下で 1層 2連の現場打ちボックスカルバート
- (3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 340m以下の場合
また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工 (2) を適用する。
目地・止水板 (I型以外の形状) については、別途考慮する。

2 ~ 4 (略)

⑪-2 (略)

⑫ (略)

第3章 コンクリート工

① コンクリート工

1. 適用

一般的な構造物のコンクリート打設（無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設で、設計日打設量が50 m³未満の場合（標準日打設量：小）を除く）に適用する。

ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、治山ダム工コンクリート、コンクリート舗装（路面工）、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、場所打擁壁工、函渠工、橋台・橋脚工には適用しない。

2 (略)

3. 区分

(略)

(1) ~ (6) (略)

(7) 圧送管距離区分

①・② (略)

③ 60mを超え120m以下

④ 120mを超え180m以下

⑤ 180mを超え240m以下

(8) (略)

4 (略)

②・③ (略)

第3章 コンクリート工

① コンクリート工

1. 適用

一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。

ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、治山ダム工コンクリート、コンクリート舗装（路面工）、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、場所打擁壁工、函渠工、橋台・橋脚工には適用しない。

2 (略)

3. 区分

(略)

(1) ~ (6) (略)

(7) 圧送管距離区分

①・② (略)

③ 60m超120m以下

④ 120m超180m以下

⑤ 180m超240m以下

(8) (略)

4 (略)

②・③ (略)

- ① 消波根固めブロック工
 1・2 (略)
 3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① 消波根固めブロック製作

区分 項目	消波根固めブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当たりコンクリート体積	1個当たり型枠面積	養生工の種類別	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

②・③ (略)

(2)～(4) (略)

- ① 消波根固めブロック工
 1・2 (略)
 3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① 消波根固めブロック製作

区分 項目	消波根固めブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当たりコンクリート設計量	1個当たり型枠面積	養生工の種類別	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

②・③ (略)

(2)～(4) (略)

1個当たりコンクリート体積 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)	1個当たりコンクリート体積 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)
1.05 m ³ 以上 1.15 m ³ 以下	5.14 m ² 以上 5.94 m ² 以下	1.73 m ³ を超え 1.87 m ³ 以下	6.61 m ² 以上 7.81 m ² 以下
	5.94 m ² を超え 6.73 m ² 以下		7.81 m ² を超え 9.00 m ² 以下
	6.73 m ² を超え 7.52 m ² 以下		9.00 m ² を超え 10.19 m ² 以下
	7.52 m ² を超え 8.31 m ² 以下		10.19 m ² を超え 11.38 m ² 以下
	8.31 m ² を超え 9.10 m ² 以下		11.38 m ² を超え 12.57 m ² 以下
1.15 m ³ を超え 1.25 m ³ 以下	5.35 m ² 以上 6.21 m ² 以下	1.87 m ³ を超え 2.01 m ³ 以下	6.91 m ² 以上 8.19 m ² 以下
	6.21 m ² を超え 7.06 m ² 以下		8.19 m ² を超え 9.46 m ² 以下
	7.06 m ² を超え 7.91 m ² 以下		9.46 m ² を超え 10.73 m ² 以下
	7.91 m ² を超え 8.76 m ² 以下		10.73 m ² を超え 12.00 m ² 以下
1.25 m ³ を超え 1.37 m ³ 以下	5.58 m ² 以上 6.50 m ² 以下	2.01 m ³ を超え 2.17 m ³ 以下	7.24 m ² 以上 8.60 m ² 以下
	6.50 m ² を超え 7.41 m ² 以下		8.60 m ² を超え 9.95 m ² 以下
	7.41 m ² を超え 8.32 m ² 以下		9.95 m ² を超え 11.3 m ² 以下
	8.32 m ² を超え 9.23 m ² 以下		11.3 m ² を超え 12.65 m ² 以下
1.37 m ³ を超え 1.48 m ³ 以下	5.87 m ² 以上 6.83 m ² 以下	2.17 m ³ を超え 2.33 m ³ 以下	7.53 m ² 以上 8.99 m ² 以下
	6.83 m ² を超え 7.80 m ² 以下		8.99 m ² を超え 10.45 m ² 以下
	7.80 m ² を超え 8.77 m ² 以下		10.45 m ² を超え 11.91 m ² 以下
	8.77 m ² を超え 9.74 m ² 以下		11.91 m ² を超え 13.37 m ² 以下
1.48 m ³ を超え 1.61 m ³ 以下	6.04 m ² 以上 7.08 m ² 以下	2.33 m ³ を超え 2.51 m ³ 以下	7.95 m ² 以上 9.49 m ² 以下
	7.08 m ² を超え 8.12 m ² 以下		9.49 m ² を超え 11.02 m ² 以下
	8.12 m ² を超え 9.16 m ² 以下		11.02 m ² を超え 12.55 m ² 以下
	9.16 m ² を超え 10.2 m ² 以下		12.55 m ² を超え 14.08 m ² 以下
1.61 m ³ を超え 1.73 m ³ 以下	6.34 m ² 以上 7.46 m ² 以下		14.08 m ² を超え 15.61 m ² 以下
	7.46 m ² を超え 8.58 m ² 以下		
	8.58 m ² を超え 9.70 m ² 以下		
	9.70 m ² を超え 10.82 m ² 以下		
	10.82 m ² を超え 11.94 m ² 以下		

1個当たりコンクリート設計量 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)	1個当たりコンクリート設計量 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)
1.05 m ³ 以上 1.15 m ³ 以下	5.14 m ² 以上 5.94 m ² 以下	1.73 m ³ を超え 1.87 m ³ 以下	6.61 m ² 以上 7.81 m ² 以下
	5.94 m ² を超え 6.73 m ² 以下		7.81 m ² を超え 9.00 m ² 以下
	6.73 m ² を超え 7.52 m ² 以下		9.00 m ² を超え 10.19 m ² 以下
	7.52 m ² を超え 8.31 m ² 以下		10.19 m ² を超え 11.38 m ² 以下
	8.31 m ² を超え 9.10 m ² 以下		11.38 m ² を超え 12.57 m ² 以下
1.15 m ³ を超え 1.25 m ³ 以下	5.35 m ² 以上 6.21 m ² 以下	1.87 m ³ を超え 2.01 m ³ 以下	6.91 m ² 以上 8.19 m ² 以下
	6.21 m ² を超え 7.06 m ² 以下		8.19 m ² を超え 9.46 m ² 以下
	7.06 m ² を超え 7.91 m ² 以下		9.46 m ² を超え 10.73 m ² 以下
	7.91 m ² を超え 8.76 m ² 以下		10.73 m ² を超え 12.00 m ² 以下
1.25 m ³ を超え 1.37 m ³ 以下	5.58 m ² 以上 6.50 m ² 以下	2.01 m ³ を超え 2.17 m ³ 以下	7.24 m ² 以上 8.60 m ² 以下
	6.50 m ² を超え 7.41 m ² 以下		8.60 m ² を超え 9.95 m ² 以下
	7.41 m ² を超え 8.32 m ² 以下		9.95 m ² を超え 11.3 m ² 以下
	8.32 m ² を超え 9.23 m ² 以下		11.3 m ² を超え 12.65 m ² 以下
1.37 m ³ を超え 1.48 m ³ 以下	5.87 m ² 以上 6.83 m ² 以下	2.17 m ³ を超え 2.33 m ³ 以下	7.53 m ² 以上 8.99 m ² 以下
	6.83 m ² を超え 7.80 m ² 以下		8.99 m ² を超え 10.45 m ² 以下
	7.80 m ² を超え 8.77 m ² 以下		10.45 m ² を超え 11.91 m ² 以下
	8.77 m ² を超え 9.74 m ² 以下		11.91 m ² を超え 13.37 m ² 以下
1.48 m ³ を超え 1.61 m ³ 以下	6.04 m ² 以上 7.08 m ² 以下	2.33 m ³ を超え 2.51 m ³ 以下	7.95 m ² 以上 9.49 m ² 以下
	7.08 m ² を超え 8.12 m ² 以下		9.49 m ² を超え 11.02 m ² 以下
	8.12 m ² を超え 9.16 m ² 以下		11.02 m ² を超え 12.55 m ² 以下
	9.16 m ² を超え 10.2 m ² 以下		12.55 m ² を超え 14.08 m ² 以下
1.61 m ³ を超え 1.73 m ³ 以下	6.34 m ² 以上 7.46 m ² 以下		14.08 m ² を超え 15.61 m ² 以下
	7.46 m ² を超え 8.58 m ² 以下		
	8.58 m ² を超え 9.70 m ² 以下		
	9.70 m ² を超え 10.82 m ² 以下		
	10.82 m ² を超え 11.94 m ² 以下		

1個当たりコンクリート体積 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)	1個当たりコンクリート体積 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)
2.20 m ³ 以上 2.40 m ³ 以下	10.01 m ² 以上 11.59 m ² 以下	3.45 m ³ を超え 3.70 m ³ 以下	12.23 m ² 以上 14.51 m ² 以下
	11.59 m ² を超え 13.15 m ² 以下		14.51 m ² を超え 16.79 m ² 以下
	13.15 m ² を超え 14.73 m ² 以下		16.79 m ² を超え 19.07 m ² 以下
2.40 m ³ を超え 2.60 m ³ 以下	10.38 m ² 以上 12.08 m ² 以下	3.70 m ³ を超え 3.96 m ³ 以下	12.86 m ² 以上 15.28 m ² 以下
	12.08 m ² を超え 13.76 m ² 以下		15.28 m ² を超え 17.70 m ² 以下
	13.76 m ² を超え 15.46 m ² 以下		17.70 m ² を超え 20.12 m ² 以下
2.60 m ³ を超え 2.80 m ³ 以下	10.74 m ² 以上 12.56 m ² 以下	3.96 m ³ を超え 4.23 m ³ 以下	13.33 m ² 以上 15.93 m ² 以下
	12.56 m ² を超え 14.36 m ² 以下		15.93 m ² を超え 18.51 m ² 以下
	14.36 m ² を超え 16.18 m ² 以下		18.51 m ² を超え 21.11 m ² 以下
2.80 m ³ を超え 3.00 m ³ 以下	11.12 m ² 以上 13.04 m ² 以下	4.23 m ³ を超え 4.53 m ³ 以下	13.87 m ² 以上 16.61 m ² 以下
	13.04 m ² を超え 14.96 m ² 以下		16.61 m ² を超え 19.35 m ² 以下
	14.96 m ² を超え 16.88 m ² 以下		19.35 m ² を超え 22.09 m ² 以下
3.00 m ³ を超え 3.22 m ³ 以下	11.51 m ² 以上 13.53 m ² 以下	4.53 m ³ を超え 4.84 m ³ 以下	14.45 m ² 以上 17.37 m ² 以下
	13.53 m ² を超え 15.55 m ² 以下		17.37 m ² を超え 20.27 m ² 以下
	15.55 m ² を超え 17.57 m ² 以下		20.27 m ² を超え 23.19 m ² 以下
3.22 m ³ を超え 3.45 m ³ 以下	11.94 m ² 以上 14.10 m ² 以下		
	14.10 m ² を超え 16.24 m ² 以下		
	16.24 m ² を超え 18.40 m ² 以下		

(6) ~ (12) (略)

4・5 (略)

1個当たりコンクリート設計量 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)	1個当たりコンクリート設計量 (m ³)	1個当たり型枠面積 (m ²)
2.20 m ³ 以上 2.40 m ³ 以下	10.01 m ² 以上 11.59 m ² 以下	3.45 m ³ を超え 3.70 m ³ 以下	12.23 m ² 以上 14.51 m ² 以下
	11.59 m ² を超え 13.15 m ² 以下		14.51 m ² を超え 16.79 m ² 以下
	13.15 m ² を超え 14.73 m ² 以下		16.79 m ² を超え 19.07 m ² 以下
2.40 m ³ を超え 2.60 m ³ 以下	10.38 m ² 以上 12.08 m ² 以下	3.70 m ³ を超え 3.96 m ³ 以下	12.86 m ² 以上 15.28 m ² 以下
	12.08 m ² を超え 13.76 m ² 以下		15.28 m ² を超え 17.70 m ² 以下
	13.76 m ² を超え 15.46 m ² 以下		17.70 m ² を超え 20.12 m ² 以下
2.60 m ³ を超え 2.80 m ³ 以下	10.74 m ² 以上 12.56 m ² 以下	3.96 m ³ を超え 4.23 m ³ 以下	13.33 m ² 以上 15.93 m ² 以下
	12.56 m ² を超え 14.36 m ² 以下		15.93 m ² を超え 18.51 m ² 以下
	14.36 m ² を超え 16.18 m ² 以下		18.51 m ² を超え 21.11 m ² 以下
2.80 m ³ を超え 3.00 m ³ 以下	11.12 m ² 以上 13.04 m ² 以下	4.23 m ³ を超え 4.53 m ³ 以下	13.87 m ² 以上 16.61 m ² 以下
	13.04 m ² を超え 14.96 m ² 以下		16.61 m ² を超え 19.35 m ² 以下
	14.96 m ² を超え 16.88 m ² 以下		19.35 m ² を超え 22.09 m ² 以下
3.00 m ³ を超え 3.22 m ³ 以下	11.51 m ² 以上 13.53 m ² 以下	4.53 m ³ を超え 4.84 m ³ 以下	14.45 m ² 以上 17.37 m ² 以下
	13.53 m ² を超え 15.55 m ² 以下		17.37 m ² を超え 20.27 m ² 以下
	15.55 m ² を超え 17.57 m ² 以下		20.27 m ² を超え 23.19 m ² 以下
3.22 m ³ を超え 3.45 m ³ 以下	11.94 m ² 以上 14.10 m ² 以下		
	14.10 m ² を超え 16.24 m ² 以下		
	16.24 m ² を超え 18.40 m ² 以下		

(6) ~ (12) (略)

4・5 (略)

② 消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25 t 以上 35.5 t 以下）

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業 区分	ブロック 質量	堆砂 の有無	クレーン 機種	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

注) (略)

(2) 作業区分

- ① 撤去・仮置き
- ② 撤去・据付け(乱積)
- ③ 撤去・据付け(層積)
- ④ 撤去・積込み

(3) 消波根固めブロック質量区分

- ① 0.25 t 以上 6.5 t 以下
- ② 6.5 t を超え 12.5 t 以下
- ③ 12.5 t を超え 35.5 t 以下

(4) (略)

4 (略)

③ (略)

② 消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25 t 以上 35.5 t 以下）

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	ブロック 質量	作業 区分	堆砂 の有無	クレーン 機種	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

注) (略)

(2) 消波根固めブロック質量区分

- ① 0.25 t 以上 6.5 t 以下
- ② 6.5 t 超 12.5 t 以下
- ③ 12.5 t 超 35.5 t 以下

(3) 作業区分

- ① 撤去・仮置き
- ② 撤去・据付け(乱積)
- ③ 撤去・据付け(層積)
- ④ 撤去・積込み

(4) (略)

4 (略)

③ (略)

① 巨石積（張）工

② 護岸基礎ブロック工

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1) (略)

(2) 中詰材区分

① (略)

② コンクリート以外又は無し

(3) ブロック製品長区分

1) (略)

2) コンクリート以外又は無しの場合

①～④ (略)

(4) ブロック下幅区分

1) コンクリートの場合

①～⑤ (略)

2) コンクリート以外又は無しの場合

①～⑥ (略)

(5) (略)

4 (略)

③ かごマット工（スロープ型）

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1)～(4) (略)

(5) 詰石規格区分

1) t=30cm

① 径 5～15cm

② (略)

2) t=50cm

① 径 15～20cm

② (略)

4 (略)

① 巨石積（張）工

② 護岸基礎ブロック工

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1) (略)

(2) 中詰材区分

① (略)

② その他または無し

(3) ブロック製品長区分

1) (略)

2) その他または無しの場合

①～④ (略)

(4) ブロック下幅区分

1) コンクリートの場合

①～⑤ (略)

2) その他または無しの場合

①～⑥ (略)

(5) (略)

4 (略)

③ かごマット工

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1)～(4) (略)

(5) 詰石規格区分

1) t=30cm

① 5～15cm

② (略)

2) t=50cm

① 15～20cm

② (略)

4. (略)

④・⑤ (略)

④・⑤ (略)

① ソイルセメント工

1. 適用

治山ダム工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)の基礎及び中詰において施工位置周辺ヤードにて現地発生土とセメントをバックホウにて攪拌混合し、運搬、敷均し、締固めを行い、構造物を構築するソイルセメント工の施工に適用する。

2. 数量算出項目

粒径処理、攪拌混合、混合材料敷均し・締固めの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、粒径処理率(%)、セメント100m³当たり使用量(t/100m³)とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	粒径処理率(%)	セメント100m ³ 当たり使用量(t/100m ³)	単位	数量	備考
粒径処理		○	×	m ³		
攪拌混合		×	○	m ³		
混合材料敷均し・締固め		×	×	m ³		

注) 1. 粒径処理の土量は、粒径処理後の土量(ほぐし土量)である。

2. 攪拌混合の土量は、締固め状態における土量である。

3. 混合材料敷均し・締固めの土量は、締固め状態における土量である。

(2) 粒径処理率(%)

- ① 40を超え45以下
- ② 45を超え50以下
- ③ 50を超え60以下
- ④ 60を超え80以下
- ⑤ 80を超え100以下

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
ソイルセメント(粒径処理土積込・運搬)	m ³		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 粒径処理率は次式による。

$$\text{粒径処理率(\%)} = \frac{\text{粒径処理後土量}}{\text{粒径処理前土量}}$$

(新設)

② 地すべり防止工（集排水ボーリング工）

1・2 （略）

3. 区分

区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ現場加工の有無、保孔管種類、製品区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ現場加工の有無	保孔管種類	製品区分	単位	数量	備考
ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	×	m		
保孔管	○	×	×	×	○	○	○	○	m		
ボーリング仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	×	回		
足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	×	空m ³		

注) (略)

(2) ~ (6) (略)

(7) ストレーナ現場加工の有無

1・2) (略)

(8) (略)

(9) 製品区分

① 工場加工品

② 既製保孔管

4 (略)

① 地すべり防止工（集排水ボーリング工）

1・2 (略)

3. 区分

区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ加工の有無、保孔管種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ加工の有無	保孔管種類	単位	数量	備考
ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	m		
保孔管	○	×	×	×	○	○	○	m		
ボーリング仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	回		
足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	空m ³		

注) (略)

(2) ~ (6) (略)

(7) ストレーナ加工の有無

1・2) (略)

(8) (略)

(新設)

4 (略)

第7章 道路舗装

① 路盤工

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1)～(3) (略)

(4) 平均厚さ区分及び材料区分
(略)

(アスファルト舗装の構成例) (略)

項目	材料 瀝青材料種類	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm <u>を</u> 超え 175mm 以下
		175mm <u>を</u> 超え 200mm 以下
		200mm <u>を</u> 超え 225mm 以下
		225mm <u>を</u> 超え 275mm 以下
		275mm <u>を</u> 超え 325mm 以下
		325mm <u>を</u> 超え 375mm 以下
		375mm <u>を</u> 超え 400mm 以下
		400mm <u>を</u> 超え 425mm 以下
		425mm <u>を</u> 超え 475mm 以下
		475mm <u>を</u> 超え 525mm 以下
		525mm <u>を</u> 超え 575mm 以下
		575mm <u>を</u> 超え 600mm 以下
		600mm <u>を</u> 超え 625mm 以下
		625mm <u>を</u> 超え 675mm 以下
		675mm <u>を</u> 超え 725mm 以下
		725mm <u>を</u> 超え 775mm 以下
		775mm <u>を</u> 超え 800mm 以下
		800mm <u>を</u> 超え 825mm 以下
		825mm <u>を</u> 超え 875mm 以下
875mm <u>を</u> 超え 925mm 以下		
925mm <u>を</u> 超え 975mm 以下		
975mm <u>を</u> 超え 1000mm 以下		
1000mm <u>を</u> 超え 1025mm 以下		
1025mm <u>を</u> 超え 1075mm 以下		
1075mm <u>を</u> 超え 1125mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	25mm 以上 75mm 以下
		75mm <u>を</u> 超え 125mm 以下
		125mm <u>を</u> 超え 175mm 以下
		175mm <u>を</u> 超え 200mm 以下
		200mm <u>を</u> 超え 225mm 以下
		225mm <u>を</u> 超え 275mm 以下
		275mm <u>を</u> 超え 325mm 以下

第7章 道路舗装

① 路盤工

1・2 (略)

3. 区分

(略)

(1)～(3) (略)

(4) 平均厚さ区分及び材料区分
(略)

(アスファルト舗装の構成例) (略)

項目	材料 瀝青材料種類	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm <u>超</u> 175mm 以下
		175mm <u>超</u> 200mm 以下
		200mm <u>超</u> 225mm 以下
		225mm <u>超</u> 275mm 以下
		275mm <u>超</u> 325mm 以下
		325mm <u>超</u> 375mm 以下
		375mm <u>超</u> 400mm 以下
		400mm <u>超</u> 425mm 以下
		425mm <u>超</u> 475mm 以下
		475mm <u>超</u> 525mm 以下
		525mm <u>超</u> 575mm 以下
		575mm <u>超</u> 600mm 以下
		600mm <u>超</u> 625mm 以下
		625mm <u>超</u> 675mm 以下
		675mm <u>超</u> 725mm 以下
		725mm <u>超</u> 775mm 以下
		775mm <u>超</u> 800mm 以下
		800mm <u>超</u> 825mm 以下
		825mm <u>超</u> 875mm 以下
875mm <u>超</u> 925mm 以下		
925mm <u>超</u> 975mm 以下		
975mm <u>超</u> 1000mm 以下		
1000mm <u>超</u> 1025mm 以下		
1025mm <u>超</u> 1075mm 以下		
1075mm <u>超</u> 1125mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	25mm 以上 75mm 以下
		75mm <u>超</u> 125mm 以下
		125mm <u>超</u> 175mm 以下
		175mm <u>超</u> 200mm 以下
		200mm <u>超</u> 225mm 以下
		225mm <u>超</u> 275mm 以下
		275mm <u>超</u> 325mm 以下

		325mm <u>を</u> 超え 375mm 以下
		375mm <u>を</u> 超え 400mm 以下
		400mm <u>を</u> 超え 425mm 以下
		425mm <u>を</u> 超え 475mm 以下
		475mm <u>を</u> 超え 525mm 以下
上層路盤 (車道・路肩部)	瀝青安定処理材(25) 瀝青安定処理材(30) 瀝青安定処理材(40) 再生瀝青安定処理材(40) 路盤材(各種)	45mm 以上 55mm 以下
		55mm <u>を</u> 超え 65mm 以下
		65mm <u>を</u> 超え 75mm 以下
		75mm <u>を</u> 超え 85mm 以下
		85mm <u>を</u> 超え 95mm 以下
		95mm <u>を</u> 超え 100mm 以下
	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 M-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	25mm 以上 75mm 以下
		75mm <u>を</u> 超え 125mm 以下
		125mm <u>を</u> 超え 150mm 以下
		150mm <u>を</u> 超え 175mm 以下
		175mm <u>を</u> 超え 225mm 以下
		225mm <u>を</u> 超え 275mm 以下
		275mm <u>を</u> 超え 300mm 以下
		300mm <u>を</u> 超え 325mm 以下
325mm <u>を</u> 超え 375mm 以下		
375mm <u>を</u> 超え 425mm 以下		
425mm <u>を</u> 超え 450mm 以下		
上層路盤 (歩道部)	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 M-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	75mm 以上 125mm 以下
		125mm <u>を</u> 超え 150mm 以下
		150mm <u>を</u> 超え 175mm 以下
		175mm <u>を</u> 超え 225mm 以下
		225mm <u>を</u> 超え 275mm 以下
		275mm <u>を</u> 超え 300mm 以下
		300mm <u>を</u> 超え 325mm 以下
		325mm <u>を</u> 超え 375mm 以下
375mm <u>を</u> 超え 425mm 以下		

(3) (略)

4 (略)

② (略)

③ 踏掛版

1～3 (略)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 作業土工は、「第2編1章土工」によるものとする。

		325mm <u>超</u> 375mm 以下
		375mm <u>超</u> 400mm 以下
		400mm <u>超</u> 425mm 以下
		425mm <u>超</u> 475mm 以下
		475mm <u>超</u> 525mm 以下
上層路盤 (車道・路肩部)	瀝青安定処理材(25) 瀝青安定処理材(30) 瀝青安定処理材(40) 再生瀝青安定処理材(40) 路盤材(各種)	45mm 以上 55mm 以下
		55mm <u>超</u> 65mm 以下
		65mm <u>超</u> 75mm 以下
		75mm <u>超</u> 85mm 以下
		85mm <u>超</u> 95mm 以下
		95mm <u>超</u> 100mm 以下
	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 M-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	25mm 以上 75mm 以下
		75mm <u>超</u> 125mm 以下
		125mm <u>超</u> 150mm 以下
		150mm <u>超</u> 175mm 以下
		175mm <u>超</u> 225mm 以下
		225mm <u>超</u> 275mm 以下
		275mm <u>超</u> 300mm 以下
		300mm <u>超</u> 325mm 以下
325mm <u>超</u> 375mm 以下		
375mm <u>超</u> 425mm 以下		
425mm <u>超</u> 450mm 以下		
上層路盤 (歩道部)	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 M-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	75mm 以上 125mm 以下
		125mm <u>超</u> 150mm 以下
		150mm <u>超</u> 175mm 以下
		175mm <u>超</u> 225mm 以下
		225mm <u>超</u> 275mm 以下
		275mm <u>超</u> 300mm 以下
		300mm <u>超</u> 325mm 以下
		325mm <u>超</u> 375mm 以下
375mm <u>超</u> 425mm 以下		

(3) (略)

4 (略)

② (略)

③ 踏掛版

1～3 (略)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 作業土工は、「第1編2章土工」によるものとする。

① (略)

② トンネル内装板設置工

1. 適用

トンネル内装板設置工の側壁用内装板のみに適用する。

2. 数量算出項目

トンネル内装板設置、トンネル内装板（材料費）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	規格	単位	数量	備考
トンネル内装板設置	×	m ²		
トンネル内装板（材料費）	○	m ²		

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		必要な場合別途計上
高所作業車			必要な場合別途計上

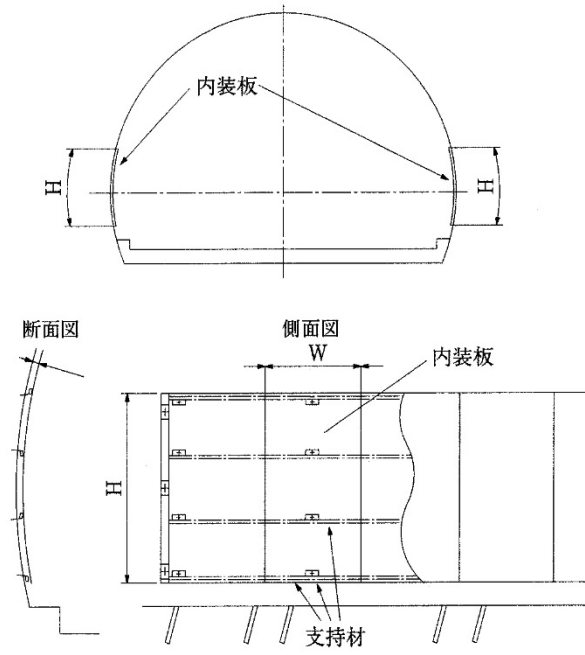
4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

① (略)

(新設)

5. 参考図 (トンネル断面取付一般図)



③ (略)

② (略)

①～③ (略)

④ 舗装版クラック補修工

1. 適用

コンクリート舗装版のクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。

2. 数量算出項目

クラック補修、注入材（材料費）、クラック防止シート張、クラック防止シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
クラック補修		×	m		
注入材（材料費）		○	m		
クラック防止シート張		×	m		
クラック防止シート（材料費）		○	m		

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当たりの質量（kg）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。

$$G = [g \times W \times D \times (1 + \text{割増率})] / 10$$

G：補修延長m当たり数量（kg）

g：注入材の比重（kg/ℓ）

W：補修幅（cm）

D：補修深さ（cm）

割増率は+0.23とする。

(2) クラック防止シート（材料費）は、諸雑費率を考慮した数量を算出する。なお、諸雑費率は+0.11とする。

①～③ (略)

(新設)

⑤ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）

1. 適用

2. 数量算出項目

鋼板（材料費）、スタッドジベル（材料費）、鋼板巻立て、シール材（材料費）、注入材（材料費）、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、アンカー材（材料費）、アンカー注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

（略）

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	支柱 区分	注入材 材質	溶接 種別	板厚 区分	削孔 深	単位	数量	備考
鋼板 （材料費）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
アンカー材 （材料費）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		

（2）～（6） （略）

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

（1）鋼板（材料費）は、規格ごとの質量（t）を算出する。

なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、形状、ブラケットの有無、塗装の仕様等を明記する。

表 （略）

注） （略）

（2）～（4） （略）

（5）アンカー材（材料費）は、規格（径、長さ等）ごとの本数を算出する。

④ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）

1. 適用

2. 数量算出項目

鋼板巻立て（材料費）、スタッドジベル（材料費）、鋼板巻立て、シール材（材料費）、注入材（材料費）、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、アンカー筋（材料費）、アンカー注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

（略）

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	支柱 区分	注入材 材質	溶接 種別	板厚 区分	削孔 深	単位	数量	備考
鋼板巻立て （材料費）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
アンカー筋 （材料費）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		
（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）	（略）		

（2）～（6） （略）

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

（1）鋼板巻立て（材料費）は、規格ごとの質量（t）を算出する。

なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、形状、ブラケットの有無、塗装の仕様等を明記する。

表 （略）

注） （略）

（2）～（4） （略）

（5）アンカー筋（材料費）は、規格（径、長さ等）ごとの本数を算出する。

(6) アンカー注入材（材料費）の使用量は、下表を標準とする。
 (削孔深 1m・100 箇所当たり)

アンカー材径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)

ただし、これにより難い場合は、次式によるものとする。
 使用量(kg) = $[(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times L \times 100 \text{ 箇所}] \times M \times (1 + K) / 100 \text{ 箇所}$
 D : 削孔径 (m)
 d : アンカー材径 (m)
 L : 削孔深 (m)
 M : 単価質量は 1,200 kg/m³ とする。
 K : ロス率は +0.14 とする。

5 (略)

(6) アンカー注入材（材料費）の使用量は、下表を標準とする。
 (削孔深 1m・100 箇所当たり)

アンカー筋径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)

ただし、これにより難い場合は、次式によるものとする。
 使用量(kg) = $[(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times L \times 100 \text{ 箇所}] \times M \times (1 + K) / 100 \text{ 箇所}$
 D : 削孔径 (m)
 d : アンカー筋径 (m)
 L : 削孔深 (m)
 M : 単価質量は 1,200 kg/m³ とする。
 K : ロス率は +0.14 とする。

5 (略)

⑥ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）

1 (略)

2. 数量算出項目

鋼板（材料費）、鋼板取付、シーリング材（材料費）、注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

注）鋼板（材料費）は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」によるものとする。

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	注入材 材質	単位	数量	備考
鋼板 (材料費)		(略)	(略)		(略)
(略)		(略)	(略)		
(略)		(略)	(略)		
(略)		(略)	(略)		

(2) 注入材材質区分

①・② (略)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
アンカー材（材料費）	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)

4 (略)

⑤ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）

1. (略)

2. 数量算出項目

鋼板巻立て（材料費）、鋼板取付、シーリング材（材料費）、注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

注）鋼板巻立て（材料費）は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」によるものとする。

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	注入材 材質	単位	数量	備考
鋼板巻立て (材料費)		(略)	(略)		(略)
(略)		(略)	(略)		
(略)		(略)	(略)		
(略)		(略)	(略)		

(2) 注入材材質区分

①・② (略)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
アンカー筋（材料費）	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)
(略)	(略)		(略)

4 (略)

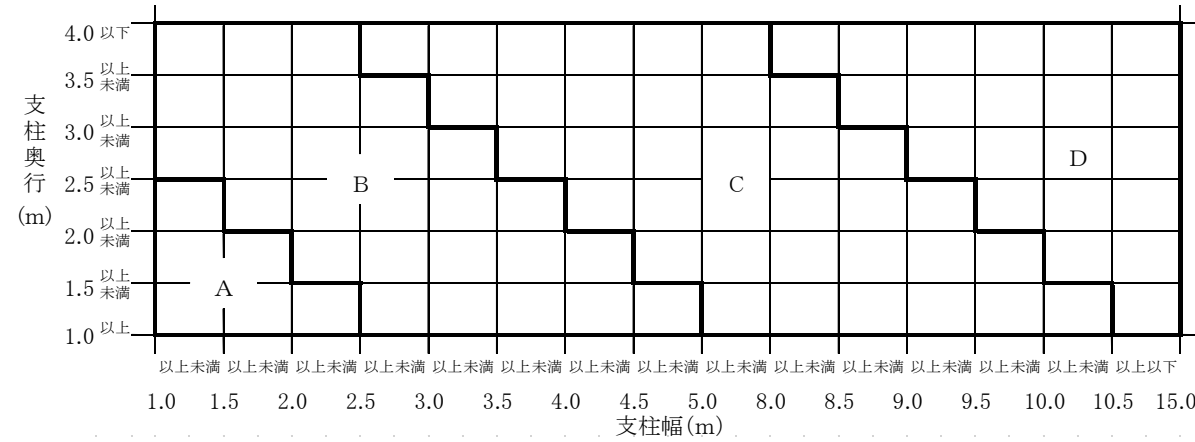
⑦ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）(1)

1. 適用

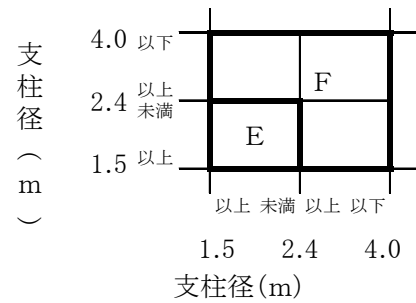
(略)

適用できる範囲

- ・矩形（小判形を含む）支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。）



- ・円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）



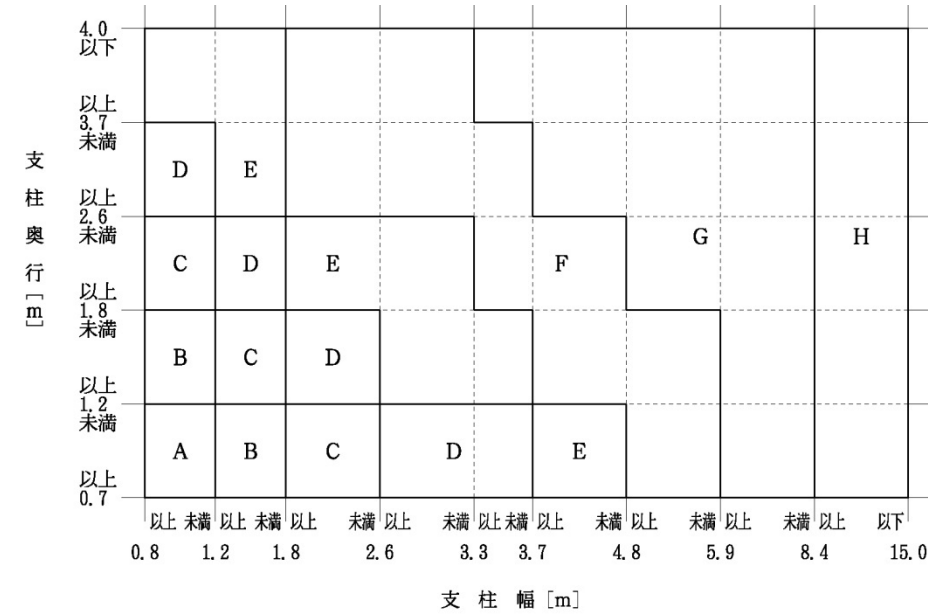
⑥ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）(1)

1. 適用

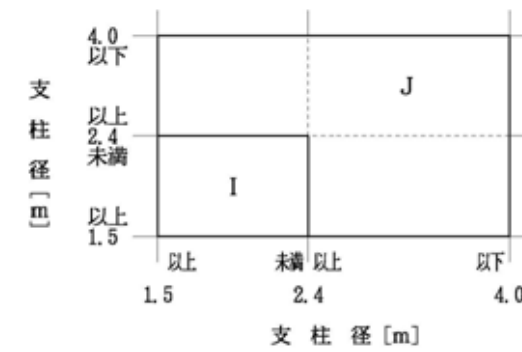
(略)

適用できる範囲

- ・矩形（小判形を含む）支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。）



- ・円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）



2. 数量算出項目

コンクリート削孔、アンカー材 (材料費)、コンクリート巻立ての数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
<u>アンカー材</u> (材料費)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

(2) (略)

(3) 支柱区分

- ① A支柱
- ② B支柱
- ③ C支柱
- ④ D支柱
- ⑤ E支柱
- ⑥ F支柱
- ⑦~⑩ (削除)

(4) (略)

4. 数量算出方法

(略)

(1) アンカー材 (材料費) は、規格ごとに本数を算出する。

注) (略)

(2) ~ (6) (略)

5 (略)

2. 数量算出項目

コンクリート削孔、アンカー筋 (材料費)、コンクリート巻立ての数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

(略)

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
<u>アンカー筋</u> (材料費)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

(2) (略)

(3) 支柱区分

- ① A支柱
- ② B支柱
- ③ C支柱
- ④ D支柱
- ⑤ E支柱
- ⑥ F支柱
- ⑦ G支柱
- ⑧ H支柱
- ⑨ I支柱
- ⑩ J支柱

(4) (略)

4. 数量算出方法

(略)

(1) アンカー筋 (材料費) は、規格ごとに本数を算出する。

注) (略)

(2) ~ (6) (略)

5 (略)

⑧ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2）

1. 適用

（略）

参考（橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）が適用できる寸法の範囲以外）

- ・ 矩形、小判型支柱（幅 1.0～15.0m、奥行 1.0～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合
- ・ 円形支柱（径 1.5～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合

2～4 （略）

⑦ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2）

1. 適用

（略）

参考（橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）が適用できる寸法の範囲以外）

- ・ 矩形、小判型支柱（幅 0.8～15.0m、奥行 0.7～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合
- ・ 円形支柱（径 1.5～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合

2～4 （略）

⑨ 橋梁地覆補修工

(新設)

1. 適用

旧高欄の撤去を含めた地覆コンクリートの撤去・修復に適用する。
ただし、高欄の設置は含まない。

2. 数量算出項目

とりこわし、鉄筋、コンクリート、足場・防護の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋規格、コンクリート規格、養生工の有無、防護種類、1工事での足場使用回数、足場を架設している総月数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	鉄筋規格	コンクリート規格	養生工の有無	防護種類	1工事での足場使用回数	足場を架設している総月数	単位	数量	備考
とりこわし	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
鉄筋	○	×	×	×	×	×	×	t		
コンクリート	×	○	○	×	×	×	×	m ³		
足場・防護	×	×	×	○	○	○	○	m ²		

(2) 防護種類

- ① シート
- ② シート+板張

(3) 1工事での足場使用回数

- ① 1回
- ② 2回

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 足場面積は、次式により算出する。

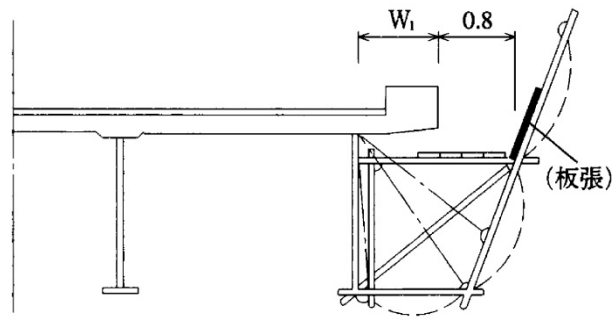
$$A = W \times L$$

A：足場面積 (m²)

W：足場必要幅 (m) (参考図による)

L：地覆補修延長 (m)

5. 参考図 (足場・防護標準図)



$W = W_1 + 0.8$ (m)

W_1 : 外桁と地覆外縁間距離 (m)

⑩ 橋梁補修工（支取替工）

⑪ 現場溶接鋼桁補強工

1. 適用

桁補強を目的とする部材取付等の現場溶接作業に適用する。

2. 数量算出項目

現場溶接鋼桁補強の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	規格・仕様	単位	数量	備考
現場溶接鋼桁補強	○	m		溶接延長（6mm換算長）

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		「第1編（共通編）1.1.4足場工」参照

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 溶接延長は、すみ肉溶接の脚長6mmの場合を標準とするが、これ以外の場合は下式により算出する。

$$\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$$

S：脚長（mm）
L：実溶接延長（m）

⑧ 橋梁補修工（支取替工）

（新設）

⑫ 落橋防止装置工

1. 適用

落橋防止装置設置（桁かかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート削孔（コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

（略）

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①・② （略）

③コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））

項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考
コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）		○	孔		

注）（略）

④ （略）

(2) （略）

(3) 削孔深さ区分

1) コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）

①～③ （略）

2) コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）

①・② （略）

(4) （略）

⑨ 落橋防止装置工

1. 適用

落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート削孔（コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

（略）

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①・② （略）

③コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））

項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考
コンクリート削孔 （さく岩機（ハンドハンマ））		○	孔		

注）（略）

④ （略）

(2) （略）

(3) 削孔深さ区分

1) コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））

①～③ （略）

2) コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））

①・② （略）

(4) （略）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) (略)

(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当たりの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg/本)} = \{(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times \ell\} \times M \times (1 + K)$$

D：削孔径（m）

d：アンカー材径（m）

ℓ ：削孔深さ（m）

M：単位質量は1,200 kg/m³とする。

K：ロス率は+0.15とする。

(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当たりの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg/本)} = \{D^2 \times \pi \times 1/4 \times \ell\} \times M \times (1 + K)$$

D：削孔径（m）

ℓ ：削孔深さ（m）（削孔深さは不達孔の平均削孔深さとする）

M：単位質量は1,875 kg/m³とする。

K：ロス率は+0.15とする。

(4) (略)

5 (略)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) (略)

(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当たりの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg)} = \{(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times \ell\} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$$

D：削孔径（m）

d：アンカー材径（m）

ℓ ：削孔深（m）

M：単位質量は1,200 kg/m³とする。

K：ロス率は+0.15とする。

(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当たりの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg)} = \{D^2 \times \pi \times 1/4 \times \ell\} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/孔})$$

D：削孔径（m）

ℓ ：削孔深（m）（削孔深さは不達孔の平均削孔深とする）

M：単位質量は1,875 kg/m³とする。

K：ロス率は+0.15とする。

(4) (略)

5 (略)

⑬ トンネル漏水対策工

1. 適用

既設道路トンネルの漏水対策のうち導水工法に適用する。

2. 数量算出項目

面導水、面導水（材料費）、線導水、線導水（材料費）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	規格	単位	数量	備考
面導水	×	m ²		
面導水（材料費）	○	m ²		
線導水	×	m		
線導水（材料費）	○	m		

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

⑭～⑯ （略）

(新設)

⑩～⑫ （略）

① 鋼橋床版工
1～3 (略)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) (略)

(2) 補正係数がスパンによって異なる場合は、スパン毎の補正係数を平均する。
なお、補正係数は小数点以下3位を四捨五入する。

$$\text{平均補正係数} = \frac{L_1 \times K_1 \times n_1 + L_2 \times K_2 \times n_2 + \dots + L_m \times K_m \times n_m}{L_1 \times n_1 + L_2 \times n_2 + \dots + L_m \times n_m}$$

L : 桁長 K : 補正係数 n : 径間数 m : スパン数

② (略)

① 鋼橋床版工
1～3 (略)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) (略)

(2) 補正係数がスパンによって異なる場合は、スパンごとの補正係数を平均する。
なお、補正係数は小数点以下3位を四捨五入する。

$$\text{平均補正係数} = \frac{L_1 \times K_1 \times n_1 + L_2 \times K_2 \times n_2 + \dots + L_m \times K_m \times n_m}{L_1 \times n_1 + L_2 \times n_2 + \dots + L_m \times n_m}$$

L : 桁長 K : 補正係数 n : 径間数

② (略)

① (略)

① (略)

附 則
この通知は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。